

為替週間展望 = ドル円はもみ合いながら緩やかに上昇か

[1月6日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		12月30日～1月3日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	157.76	158.07(30)	156.02(31)	157.10	-0.77
ユーロ・ドル	1.0428	1.0458(30)	1.0226(2)	1.0277	-0.0149
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	39,894.54	-386.62	日本10年債利回り	1.101	-0.024
ダウ平均株価	42,392.27	-599.94	米10年債利回り	4.541	-0.084
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 6日 中国12月財新サービス業PMI
スイス11月小売売上高
独11月サービス業PMI確報値
ユーロ圏11月サービス業PMI確報値
英11月サービス業PMI確報値
独12月消費者物価指数速報値
米12月サービス業PMI確報値
米11月製造業受注
- 7日 豪11月住宅建設許可件数
スイス12月消費者物価指数
ユーロ圏12月消費者物価指数速報値、ユーロ圏11月雇用統計
カナダ11月貿易収支
米11月貿易収支
カナダ12月Ivey購買部協会指数
米12月ISM非製造業景況指数
米11月雇用動態調査(JOLTS)求人件数
- 8日 豪11月消費者物価指数
独11月製造業受注指数
ユーロ圏11月生産者物価指数
米12月ADP雇用統計
米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(12月17-18日開催分)
- 9日 日銀支店長会議
豪11月小売売上高、豪11月貿易収支
独11月鉱工業生産指数、独11月貿易収支
ユーロ圏11月小売売上高指数
米新規失業保険申請件数
- 10日 日本11月勤労者世帯家計調査
日本11月景気動向指数速報値
スイス12月雇用統計
米12月雇用統計
カナダ12月雇用統計
米1月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】米連邦準備制度理事会(FRB)の利下げペースが鈍化すると観測や日銀の追加利上げ先送り観測などから、ドル円は上昇基調で推移するとみられる。高値圏では日本の財務省や日銀による介入警戒感が高まり、急速な円安進行は抑えられとみられる。そうした中、底堅い推移が続いて、ドル円は緩やかに上昇を続けるとし

た。

【年末年始のドル円は高値圏でもみ合いで推移】

12月最後の週は、年末年始を控えて明確な方向感が出なかった。そうした中、ドル円は158円前半まで上昇した後、156円付近まで下落した。米連邦準備制度理事会（FRB）による利下げペース減速観測や日銀の早期利上げ見送り観測などから、ドル円は158円台に乗せたものの、年末年始を控えての手じまい売りや介入警戒感などを背景に上値を抑えられた。

ドル円は156円付近では下げ祭りを見せるなど、大きな崩れは見せていない。市場参加者が少ない中で、もみ合いながらも底堅い動きを見せている。

1月には、23-24日に日銀金融政策決定会合、28-29日に米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催される。市場の予想では、1月の日銀会合での利上げ確率は40%前後、3月の会合で70%程度となっている。一方で、CME FEDウォッチによるとFOMCでの利下げ確率は10%前後となっており、据え置き予想が90%前後となっている。日銀会合もFOMCも注目度は高いものの、いずれも政策金利は据え置きの可能性が高いとみられる。

【年始は注目度の高い米経済指標が相次ぐ】

日銀会合やFOMCまではまだ時間があり、市場の動向はそれまでに発表される経済指標、要人発言、トランプ次期大統領の就任などのイベントに左右されるとみられる。1月6日の週は米雇用統計をはじめとして、注目度の高い経済指標の発表が相次ぐ。

日米の経済指標やイベントとしては、6日に米12月サービス業PMI確報値、米11月製造業受注、7日に米11月貿易収支、米12月ISM非製造業景況指数、米11月雇用動態調査（JOLTS）求人件数、8日に米12月ADP雇用統計、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（12月17-18日開催分）、9日に米新規失業保険申請件数、10日に日本11月勤労者世帯家計調査、日本11月景気動向指数速報値、米12月雇用統計、米1月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

米経済指標はインフレ率が高めの水準を維持していることや堅調な米経済指標が多くみられることで、米長期金利は高止まりするとともにドルも底堅い動きを見せている。ドル円は高値圏で推移しており、米経済指標が市場予想を上回るようなものが多ければ、ドル買いにつながる可能性が高まりそうだ。こうした中、米経済指標の結果に左右されつつも、ドル円はもみ合いながら緩やかに上昇を続けるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、155.00～161.00円。

【ユーロドルは上値の重い展開が継続か】

ユーロドルは米長期金利の上昇に伴うドルの堅調さを背景に下値を探る動きとなっている。12月30日に1.0450付近まで戻したものの、その後は下げに転じている。1月2日には1.0220台まで下落して、11月22日の安値1.0330を割り込む動きを見せている。なお、1月30日の欧州中央銀行（ECB）理事会では0.25%の利下げを見込む向きが多い。

戻したところでは21日移動平均線に上値を抑えられ、下落局面では5日移動平均線が抵抗となっており、上値の重い展開が続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0100～1.0450ドル。

ユーロドルと同様にポンドドルも上値の重い展開を見せている。12月30日に1.2600台に乗せたものの、その後は1.23台半ばまで下落している。英金融政策委員会（MPC）では12月の利下げは見送りとなったが、市場では2月利下げの確率が70%前後に高まりつつある。こうした中、ポンドドルは軟調な推移が継続するとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2100～1.2550ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、6日に中国12月財新サービス業PMI、スイス11月小売売上高、独11月サービス業PMI確報値、ユーロ圏11月サービス業PMI確報値、英11月サービス業PMI確報値、独12月消費者物価指数速報値、7日に豪11月住宅建設許可件数、スイス12月消費者物価指数、ユーロ圏12月消費

者物価指数速報値、ユーロ圏11月雇用統計、カナダ11月貿易収支、カナダ12月I
VEY購買部協会指数、8日に豪11月消費者物価指数、独11月製造業受注指数、ユ
ーロ圏11月生産者物価指数、9日に豪11月小売売上高、豪11月貿易収支、独11
月鉱工業生産指数、独11月貿易収支、ユーロ圏11月小売売上高、10日にスイス1
2月雇用統計、カナダ12月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。